

医療法人社団 晃悠会 むさしの救急病院 (東京都小平市)

ケネスのユーティリティサービス® 導入で エネルギー設備の初期費用ゼロ! 効率的な設備運用で 大幅な省エネを実現



昨年2月に地域密着の救急病院として開院した、むさしの救急病院。建設にあたり、Kenesのユーティリティサービス®を導入した。その決め手、実際の効果などについて聞いた。

医療法人社団 晃悠会 理事長
むさしの救急病院 院長
むさしの救急病院 名誉院長
鹿野 晃 氏



独自の試みとして 地域に密着した 中規模救急病院を開院

医療法人社団 晃悠会 むさしの救急病院(以下むさしの救急病院、東京都小平市、132床)は2024年2月の開院以来、24時間365日、診療科や重症、軽症、年齢などを問わずに患者を受け入れ、中規模病院ながら初年度の救急搬送の受け入れは、全国トップクラスと比肩するペースで推移している。

院長の鹿野晃氏は「救急医療機関が近くにないため搬送や受入れに時間がかかり、亡くなったり後遺症が残ってしまったりすることに、心を痛めてきました。そうしたケースを少しでも減らし、住民の方々が安心して暮らせる地域を実現したいという強い思いから、全国に先駆けて『救急病院』と名のつく、地域密着型のこの病院を開院しました」と話す。

むさしの救急病院は、医療における理想の『スピード』『コンビニエンス』

『コミュニケーション』を追求している。『スピード』とは、1分の遅れが生存率を10%下げる現実への対応。ハイブリッドERなどの最新設備と幅広い症状に対応できる医師を備えるなど、救急病院にふさわしい体制で生存率の壁に挑んでいます。『コンビニエンス』は、軽症の中に潜む重症を見逃さないために、どんな症状でも患者さんが少しでも不安を感じれば、ためらわず受診していただけることです。『コミュニケーション』とは、『究極の救急は予防医療』と考え、大病を回避できるよう、救急病院でありながら、かかりつけ医として日頃から気軽に相談できる『町の保健室』を目指すことを表現しています(鹿野氏)。

鹿野氏はこれまで、救命救急センターでの救急医を皮切りに、在宅医療や精神医療、内科など、幅広い分野で活躍してきた。そうした幅広い経験を病院運営に活かし、在宅医療や民間救急隊の整備にも力を注いでいる。

「地域の救急病院が核となることで、在宅の患者さんでも速やかに診断し、必要な場合は入院、手術を行うことができます。また、病院に来る手段として民間救急隊を編成し、救命救急士約20名、救急車3台の体制で、医師のコントロールの下、適切な処置を行いながら搬送します」(鹿野氏)。

鹿野氏は地域密着の中規模救急病院という前例のない試みを先頭に立って進める一方、地域の小・中学校の救命教育など院外活動にも積極的に取り組んでいる。

エネルギー管理の すべてをまかせられるので より医療に集中できる

医療法人社団 晃悠会むさしの救急病院を新設するにあたり、医療コンサルタント会社から「建設に伴う初期投資を抑えることができ、省エネコンサルや設備管理などを任せられるエネル

サービス採用の決め手はココでした!

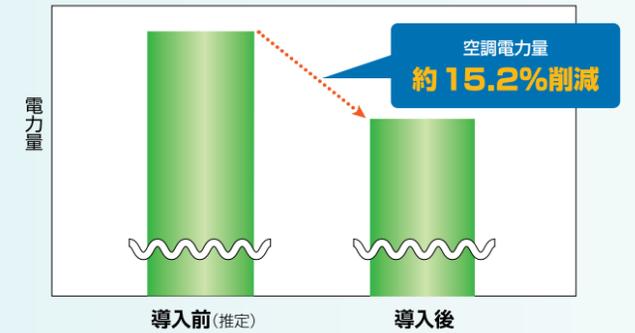
- ✓ 初期投資不要で最新・最適の高効率機器を導入できる
- ✓ 設備の運用をまかせることで、安定的・効率的なエネルギー活用を実現
- ✓ 24時間遠隔監視、フルメンテナンス契約で故障や問題発生時の対応も安心
- ✓ 医療福祉施設における豊富なエネルギー管理の実績

【提供サービス】

- ユーティリティサービス®
受変電設備、空調設備、空調制御設備、給湯設備、非常用発電設備、24時間遠隔監視、エネルギー管理業務
- 空調制御サービス「おまか Save-Air®」

【サービス開始時期】2023年12月

おまかSave-Air® 導入により空調電力量を削減!



Kenesの遠隔監視センターではサービス対象設備の状況やエネルギー使用状況を24時間365日監視。問題の発生を未然に防止するとともに、最適なチューニングを実施することで、さらなる省エネを実現する。

ギーサービスを活用してみても」というアドバイスを受けたという。そこでKenesともう1社の比較検討を行った結果、Kenesのユーティリティサービス®が採用された。

鹿野氏は「私と同じ方向を向いて『やります、やれます、やってみせます』と言える人たちと病院を作りたいと思っています。Kenesの担当者は、私たちの難しい要望に対しても決して『できません』とは言わず、こちらの立場に立って考え、寄り添いながら解決策を見つけてくれました。そんな真摯な姿勢が信頼に繋がっています」と振り返る。

2022年11月着工、2023年12月工事竣工というタイトな工程の中、Kenesは病院側の要望がきちんと設計面に反

映されているかを確認。また、快適性を維持しながら空調エネルギーの省エネを実現する「おまかSave-Air® (おまかセーブエアア)」の導入によって対象となった補助金の申請手続きもサポートした。

鹿野氏は「細かい要望にもしっかり応えていただきました。病棟や手術室、MRI室などはそれぞれ最適な室温が違います。適切な室温の区分けや万一の災害に備えた余裕ある非常用発電設備など、設計段階から入念に考えられていると感じます」との評価。

また、Kenesのユーティリティサービス®を導入する最大のメリットは、エネルギー管理のすべてを安心してまかせられる点だとも言う。

さらに「省エネや設備の適切な管理、故障時の対応などをKenesさんにおまかせすることで、私たちは本業である医療に集中できます。今後新設する病院にもユーティリティサービス®を導入し、一括で管理する構想を描いています。エネルギー価格高騰への対応策として、インシャルコストゼロで、ランニングコストも低減できるKenesをおすすめします」と語った。

「医療を通して社会に貢献したい」という鹿野氏の思いに、Kenesがしっかりと寄り添っていく。

サービスの詳細はこちら

ユーティリティサービス®

おまかSave-Air®



株式会社 関電エネルギーソリューション (Kenes:ケネス)

本社: 〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18 中之島フェスティバルタワー
TEL. 050-7105-0147 (代表) FAX. 06-6228-1777
東京オフィス: 〒104-0031 東京都中央区京橋1-11-1 関電不動産八重洲ビル6F
TEL. 03-6369-8745 FAX. 03-3562-4500

[Kenes]で検索してください。

<http://www.kenes.jp/>

